

報恩講とは

親鸞さまのご法事のことです。それは、キリスト教でいうクリスマスのような、浄土真宗では不可欠、一番大切な行事です。七〇〇年以上にわたり、私たちの先達により、ひと世代ひと世代、大切に伝えられてきました。しかし核家族化のせいでしょうか、ご両親はあんなに大事にされていたのに、次の世代になると全くご存じないという方が増えはじめています

初めて聞いた

という方も、どうか「温故知新（古きを温ねて新しきを知る）」の精神で、先達やご先祖が大切に伝えてこられた事を体験してみてください。

木を見て森を見ず

すぐそこに大きな森があるのですが、そのことをお伝えできない力不足を恥じ入るばかりです。どうか「葬式・法事だけでいい」と言われずに、通り報恩講や報恩講法座にご縁を結んで下さい。きつと、大きくて静かな森（仏さま）の世界が開けてくるはずですよ。



はじめての人の報恩講ガイド

(二〇二四年度版)



通り報恩講について（詳しくは次頁をご覧ください。）

都合が悪い方

お仕事などで、ご案内の日時にご都合がつかない方は、別の日時にお参りさせていただいています。ご遠慮なくご相談下さい。また逆に、その時間に合わせて帰宅するので、コース表通りの時間でなければ困るという方も、失礼があつてはいけませんのでお寺までお知らせ下さい。

ご理解とご協力を

時間厳守を心がけておりますが、臨終勤行（枕経）やお葬式ができた場合は、誠に恐縮ですが、変更にご協力下さい。

また、変更する場合は、事前にご連絡いたしますが、お家の都合などで急な変更があつた場合や、深刻な相談があつた場合、どうしても多少時間が前後することがあります。どうぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

報恩講は三つある

まず、各ご家庭でつとめる「通り報恩講」。西教寺では、例年十月一日（土日祝日休み）よりはじまります。お寺の近くは、こちらで日時を指定させていただき、一軒三〇分目安でお参ります。遠隔地の方や事情がおありの方は、日程等相談してお参りさせて頂いています。ほとんどのご門徒がつとめられます。

次に、お寺での「お取り越し報恩講法座」。親鸞聖人のご命日（二月十六日）をご本山以外の各寺院は取り越してつとめます。ご門徒の皆さん、「年に一度、報恩講だけはお寺参りをする」と

おとりこし報恩講法座
 三津田支坊
 11月13日～15日
 蔵本通支坊
 11月25日～28日
 長ノ木本坊
 12月13日～16日

いうことになってくたかね。

そして最後に、一月十六日の親鸞さまのご命日、ご本山（西本願寺）では「ご正当（御正忌）報恩講」がつとまります（九日～十六日）。ご門徒なら、一生に一度はご本山にお参りしたいものです。しかし、本山へ参詣できない人のために、ご法義の厚い（信仰の盛んな）安芸地方では各寺院でもご正当の法座を行っております。

報恩講の意義

報恩講は、真宗門徒にとって特別な意味をもつ行事です。今まで仏法にご縁の遠かった方は、お寺というと、「先祖の葬式と法事をするところ」というイメージかもしれません。しかし、お釈迦さまの説かれた仏法、また親鸞さまの教えは、人生のさまざまな苦悩や悲しみを乗り越え、心の安らぎをえて、実りある人生を教えるものです。真宗では、そのように人生に眼をひらかれ

ることを「信心を決定する」といい、毎月お寺で開かれている法座（お聴聞）は、そのためのものです。また、蓮如さん（本願寺八代門主）は、

未安心の行者にいたりては（略）この砌において仏法の信・不信をあひたづねてこれを聴聞してまことの信心を決定すべくんば、**真実真実、聖人（親鸞）** 報謝の懇志にあひかなふべきものなり。
 『御俗姓』『浄土真宗聖典註釈版』123頁

と言われ、私たち一人一人が信心を決定すること、つまり人生の本当の意味に眼を開かれ、一時しのぎではない本当の心の安らぎを得ることこそが、親鸞さまのご恩に報いること「報恩」になるのだと仰有つています。

その意味では、西教寺の報恩講は、まことにお恥ずかしい、形ばかりの報恩講ですが、少しでも本来化・現代化して、「心の安らぎ」、新しい人生への「めざめ」、そして「出会い」の場とな

るよう、僧侶・門徒どもどもに背筋を正してお迎えしたいと思えます。

また既に、私は大きな宝物をもらった、これが私に届けられるまでにはどれほどのご苦勞やお手間があつただろうと感じている皆さん、現代は危機的状況ですが、少しでも仏法が弘まるよう、また世の中が安穩になるよう、できるところでご報謝をお願い致します。ご家族ご友人など、一人でも多くの方を誘つてご縁におあい下さいね。

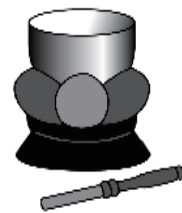
お仏壇の準備

通り報恩講は、何はともあれ、お仏壇のご準備から。報恩講は、昔から、「おみがき」といってお仏壇を大掃除してお迎えするのが慣わしです。

おみがき（お掃除）

めつきしていいしんちゅ

う製の輪燈・おリン・仏飯器などは、仏壇店などで売っているしんちゅ磨きなどで磨きまします。家族みんなでおみがきしましょう。



おかざり

「お花」まごころをお供えするのですから、造花はご法度です。



ローソク

普段横着して電気のローソクだけの人も、この日は本物のお

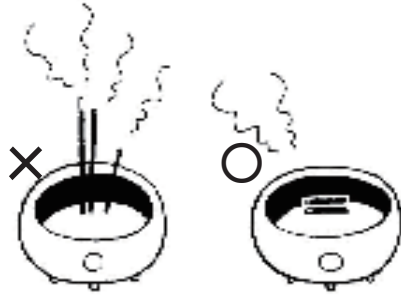


光りをともしましょう。新しい

のを出しておいて下さい。できれば、朱口ウ（赤いロソク）で。マッチと灰皿をお忘れなく。

〈お香〉

できるだけ良い香りのものにしませう。香炉は灰をならしておきませう。マッチの燃えカスは香炉ではなく灰皿に入れるようにしませう。



線香は立てずにねかせます

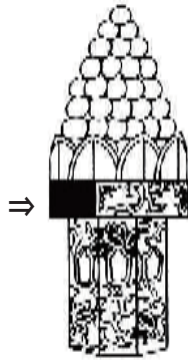
〈お仏飯〉

これがなければ始まりません。両脇掛け（親鸞さま・蓮如さま）にもお忘れなく。



〈お供え物〉

報恩講などの法要仏事の際は、お仏飯の他、お餅やお菓子等を適宜お供えします。お供える順番は①「餅」②「菓子」③「果物」の順です。また、お供えは、供筒（華足ともいう）や高杯に盛りますが、この辺で多い三方向が金濃（金色）、残りの三方向が黒の供筒は、金が正面に来るよう（黒が見えないように）します。



裏側（黒塗りの部分）が出ないようにします。

ちなみに、仏さまと、ご先祖とを混同しておられる方も少なくないようです。仏さまにはお水・お茶・コーヒー・お酒・たばこ等はお供えしません。



亡き人とお話ししたり、涙を流したりするのも、また、その他さまざまな人生の苦悩も、仏

さまとともに受け止めるならば、五里霧中をさまよっていても、必ず光が差してまいります。お仏壇は大切なことを私に見せて下さる場です。

御文章

「出し忘れ」をしたり、向きが「上下逆」になっているのが御文章。お持ちでない方は、お寺にご相談下さい。ちなみに、法事の「お仏前」やお花、仏具など、お供えは皆、私たちの方向にを向けるのが作法です。お供えは、私が仏さまに向けて供えたつもりでも、実は備えさせてくださっている（私の仏心は実は仏のはたらき

〓おかけ

の世界を表しているらさ（上側）ちが（側）が



お焼香道具

香炉を乗せるお盆・抹香（粉のお香）を忘れずに。



お念珠・お経の本

お念珠、お経の本を忘れずに。また、大切な物では直接地面に置かないよう気をつけましよう。

おつとめ

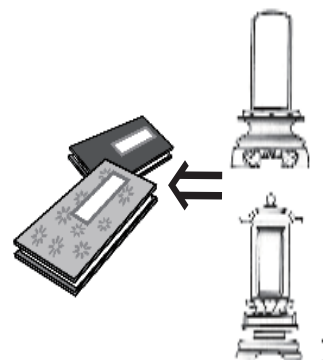
お経はいつしよについてあげます。老眼鏡を忘れずに。数年前から、お正信偈も少しはゆつくりになったと思えますので、できるだけ多く方を誘ってご縁にお会い下さい。

お位牌は過去帳に

真宗はお位牌は使いません。過去帳に書き換えましよう。お寺の者に相談下さい。

真宗門徒の生き方

時々お参り先で、お守り・破魔矢・お札・神棚・他宗の本尊など見かけます。このほか、日の善し悪しや方角、墓相・家相、その他さまざまな縁起かつきや、運氣が上がるといわれる壺や印鑑など、気になっている方もいらっしゃるようです。私はそれを決して、「けしからん」とか「つまらん」と言っているのではなくて、そのために遠くまでお参りに行かなくても「身近にすばらしい教えがありますよ」とお伝えしたいのです。



いらなくなります

どう生きるのか

先年西教寺にお招きした
亀井鑛(かめいひろし)先
生は、真宗大谷派のお寺の
ご門徒で聞法歴五十年、N
HKテレビ「心の時代」で
随時司会もされています。

先生は、「これは、真宗門
徒だからとか、宗派の掟と
して、昔からそういわれて
いるから、そう教えられて
いるから、というんでなく、
そもそも人間が生きる上で、
これをどう受けとめていつ
たらいいかという問題で
す。」(亀井鑛著『妙好人と
生きる』)といわれます。家
族が健康で長生き、仕事も
順調等々、幸福を願うのは、
私たちの素朴な願いです。
それをかなえるために私た
ちはさまざまに努力します
が、思い通りにはなりません
ね。そこを神さまにかな
えてもらおうと祈願するわ

けですが、はたしてそれで
思いはかなうのでしょうか。

また、本気で信じてはいな
いと言いつつ、お札やお守
りを手放せない皆さん、こ
こが仏法の聞きどころです。

道理に気づく

亀井先生いわく。「仏様
も、人間の側から仏様に向
かって・拜んで祈ってますが
手を合わすと、願いが
かなえてもらえるのか。そ
うじゃないですね。仏様は
向こうから私たち人間に向
かって、「お前たちの生き方
はまちがっている。法に背
き道理に違ふ。それに気付
いてくれよ」と呼びかけ、
願いかけてくださっている。
それ本願という。」(略)。

「真の宗教は、迷信に対する
正信です。本願念仏は正信
でした。それは道理の宗
教といつていい。道理にのっ
とり、道理にかなったあり

方に私たちを導く。」

(亀井前掲書)

道理(法・み教え)を聞けば、
私の生き方・願いの底にあ
る無明性(真実に明るくな
いこと)煩惱性(自己中心性)
に気づかれます。そして本
当の生き方が見えてきます。

地獄の苦しみを 背負って立つ力

喜多繁子さんは、あ
る新興宗教を信仰していた
(亀井鑛著『われら念仏に
生きる』より引用)。二人目
の子が生まれたころ、夫の
武弘さん(51歳)が病気に
なつた。病気を治すために
お内仏の前(在来)の家の宗
旨はそのままよいという
教えだつた)でその教団の
聖典を、時間を決めて読経
のように読誦した。一生懸
命に信仰したが、結局、効
能はあらわれなかつた。
「どうしてなの。これだけ
やっても、どうして夫の病
が治らないの」と焦りと疑
いがよぎりはじめたとき、
手次ぎ寺の慈光寺(後藤道
照住職)からもらつた「法
語カレンダー」(真宗教団
連合刊)の「地獄の苦し
みを背負って立つ力を信心と
いう」ということが、繁
子さんの目に入った。

「本当に、もうどうにもなら
なかつたのです。その状態
を背負って立つ力が信心な
のか、と。私もその教団で
信心していたつもりだつた
のですよ、苦しい境遇を変
えてもらいたい一心で。そ
うだつたか、苦しみを受けと
めて背負うということが信
心だつたか。このことばは
とつて、私はその教団から
切れました。あのことばに
出遇わなかつたら、今でも
つっぱせてやっていたでしょ
うね。」

皆さん、ちよつと仏法を
聞いてみませんか?

心にしみるおとりこし報恩講法座

〔朝席〕8時30分～10時30分 〔昼席〕13時～15時 〔夜席〕19時30分～21時
参加費(ご法礼)はお気持ち(喜捨)。本堂内の帳場さんへお願いします

三津田支坊 11月13日(木)夜席～15日(土)朝席

三条 4-13-7
TEL0823-21-5895

講師 波佐間 正己 先生

(本願寺派布教使特別審事・美祢市大嶺町正隆寺前住職・著書『22世
紀の浄土真宗』『48願の浄土』『親鸞聖人の魅力』『甦りノート』他多数)

蔵本通支坊 11月25日(火)夜席～28日(金)朝席(27日(木)夜席はありません)

中央 7-7-13
TEL0823-21-2798

講師 真城 義磨 先生

(元大谷中学高校校長・真宗大谷派愛媛県今治市善照寺住職・著書『危機にある子どもたち―宗教教育の本質
を問う―』『みんなが安心して生きられる世界に』『真の人間教育を求めて』『安心してがんばれる世界を』他)

長ノ木本坊 12月13日(土)夜席～16日(火)朝席(15日(月)夜席はありません)

長ノ木町 16-10
TEL0823-21-3714

講師 片江 哲海 先生

(元本願寺中央相談員・連研中央講師・佐賀県神埼郡西福寺住職)